

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 98号 ◆

-----2017-3-3◆◇

弥生三月。本日はお雛祭りの日です。

今月 25 日には、京都学園大学で年次総会が開かれます。春休みの一日、京都で学びの日を過ごしませんか。

さて、三月は去るといわれるように学年末の行事などでアツという間にすぎさってゆきます。期末考査、地域によっては高校入試、卒業式、そして異動の内示など季節の変わり目として毎日目の回るような日々となるでしょう。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

2月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

年次大会、部会の案内などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

最新のニュース、2月に行われた活動などを報告します。

■東京部会(No.89)を開催しました。

日時:2017年2月9日(木) 19時00分~21時30分

場所:日本大学経済学部会議室。参加者 17名

(1)札幌部会から参加した山崎辰也先生(北見北斗高校)の実践報告の検討を最初に行いました。山崎先生の報告は「社会科学科としての経済教育」のタイトルで、所属校での授業の実践とその分析です。

山崎先生の授業では、いろいろなところの価格の決まり方から生徒が効用価値説的な考え方をもっているか、労働価値説的な考え方をもっているかを分類して、その考え方がどこから来たのかを推定するところからはじまり、効用価値説的な考え方をオークションによる価格の変化から読み取らせるという内容です。

検討では、生徒の認識の分類が必要かどうか、山の頂上のジュースの値段などの問題は効用価値説とか労働価値説の問題ではなく市場の違いの問題であること、オークションは現代的な意味があつて面白いが、授業全体の流れの中での位置づけ

では再検討の余地があることなどが指摘されました。

(2) 塙枝里子先生(都立府中東高校)から二つの実践報告と教材提供がありました。

一つは、「比較優位を身近にとらえる試み」で、昨年名古屋部会荒渡良先生(名古屋大学)の報告から刺激を受けて作成された授業案です。これは比較優位を交換の利益を理解させることをねらいとした授業で、比較生産費説が国単位の貿易利益を説明するものに対して、人単位での交換としているところ、また、機会費用から交換の利益を理解させることがこの実践案のポイントとなるとの説明があり、検討が行われました。

もう一つは、「金融のしくみと働き」の授業案です。これは、金融に関する4時間の授業で、今回はそのなかの最後の時間にパーソナルファイナンスの観点からの金融の授業を実施したものが報告されました。また、この授業のあとに、さらに加藤一誠先生(慶応義塾大学)によるミクロからマクロへ金融の理解を拡張させるねらいの特別授業がおこなわれたことが報告されました。

(3) 梶ヶ谷壤先生(昭和音楽大学)から、社会保障に関する資料提供が二つありました。

一つは、社会保険庁が行っている年金教育のpp資料です。もう一つは、教科書における保険の記述の比較をしたものです。残念ながら、検討の時間が十分にとれず紹介のみとなりました。

(4) 夏の経済教室の内容の検討を行う予定でしたが、これも時間が十分にとれなかったため、近日中に原案を作成して持ち回りで協議することになりました。

(5) 今回の東京部会は、教材検討を中心に実施され、内容的にもかなり高度なものが紹介、検討されました。内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo089report.pdf>

■大阪部会(No.52)を開催しました。

日時:2017年2月18日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

参加者14名。主な内容は以下の通りです。

(1) 篠原総一代表(京都学園大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動についての報告がありました。

(2) 札幌部会から参加した飯高祥之氏(札幌市立真栄中学校)から、中学公民の「労働の意義と労働者の権利」の授業計画や指導案の報告がありました。これは、

2016年に北海道金融広報委員会から委嘱を受けた研究授業で、まず生徒に、将来の生活についてのイメージをさせて、生涯賃金や授業料などの資料をもとに自分の進路や職業について選択をさせ、それらが将来の生活に大きな影響を与えることを具体的な数値を使いながら理解させるような構成の授業です。

検討では、労働の分野は、男女格差、正規非正規の格差、年齢別賃金など様々な問題があり、労働三法など働く権利とも関連づける必要もあり、ねらいをもっと絞って明確にした方がよいとの意見が出されました。

(3)大塚雅之先生(府立三国ヶ丘高校)より、「税から政策を考えるカリキュラムの開発」と題する授業実践の報告がありました。租税制度や公共財についての理解から、主権者としての資質や態度を育成することを目指した全7回の授業です。

このうち二回目の公共財の学習でのタブレットの共同購入を例にした公共財供給ゲームは、中川雅之先生(日本大学)が作成したマンション耐震工事の例よりも、少しやさしい場面設定での授業展開となっています。

(4)公共財供給ゲームは、奥田修一郎先生(狭山市立南中学校)から配布された教材集の中にも含まれていました。この授業では、アラスカに住む日本人妻の例から、電気・水道を整備することの利益やそのための費用について、個人レベルと全体レベルとを区別しながら考察をさせ、公共財の特徴を学ばせる狙いで展開されています。そこから税金の意義まで考察させる授業展開になっています。検討では、「ただ乗りを」を罪悪視したり、それを防ぐための罰則の方法に生徒の関心が向きすぎないようにする必要があるとの指摘がされました。

(5)山本雅康先生(奈良学園中学高校)からは、高校現代社会の二つの授業例が報告されました。

一つは、昨年「先生のための夏休み経済教室」で栗原久先生(東洋大学)が行った講義を参考に作られたもので、租税や社会保障支出に関する個人の考えから出発し、グループ活動を通してグループとしての順位付けと発表を聞いた上で、再度個人的な判断で順位付けをする、という構成の授業です。

もう一つは、「人口減少社会について経済教育の観点から考えるー新聞資料をもとにジグソー法による言語活動ー」と題された授業です。日本の経済学者、県知事、フランスの社会学者の三者が、「人口減」に挑む」という論題で書いた新聞記事を利用した授業です。これもグループ活動を踏まえた生徒個人の見解を求める授業です。

(6)安野雄一先生(大阪教育大学附属平野小学校)からは、「価値判断・意思決定力を育む社会科授業～日本の財務を題材としたアクティブラーニングの試み～」と題する報告がありました。三権分立の学習、日本の財政状況の学習(財務省による財政教室)を踏まえ、グループでの議論、学級全体での討議と財政案の作成、個

人の生活と関連づけた考えのまとめ、全体での発表や意見交換、という構成の授業です。

財政案をまとめる際には、タブレット端末を用い、財政案のシミュレーションソフトも活用されている授業です。

(7) 今回の大阪部会は、多数の報告がなされ、報告内容、準備された資料などきわめて高水準のものとなりました。すべての報告に関して検討する時間がなかったのですが、ネットワークの部会活動の到達度を示すものになりました。内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka52report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。

■ 年次大会(シンポジウム)を開催します。(既報)

「そうだ今年も京都に行こう」がキャッチフレーズです。大会テーマは主権者教育。政治学習と考えられている主権者教育に、経済教育からの風を吹き込む講演、授業提案、理論考察などが予定されています。関西圏だけでなく、全国からの参加を期待します。

日時： 2017年3月25日(土) 13:00~17:00

場所： 京都学園大学 太秦キャンパス

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/Sympo/20170325RSymposium.pdf>

■ 夏の経済教室の日程・場所が決まりました。

今年は、東京証券取引所と共催の「先生のための夏休み経済教室」が10年目になります。

以下のように、日程、場所が決まりました。

8月3日(木)名古屋中学校向け(ウインクあいち)

8月4日(金)名古屋高等学校向け(同)

8月7日(月)大阪中学校向け(国民会館)

8月8日(火)大阪高等学校向け(同)

8月14日(月)東京高等学校向け①(東証ホール)

8月15日(火)東京高等学校向け②(同)

8月17日(木)東京中学校向け①(東証ホール)

8月18日(金)東京中学校向け②(同)

講義内容、講師など決まり次第メルマガ、HPでお知らせいたします。

* 定例部会のお知らせです。(開催順)

■東京部会(No.90)を開催します

日時:2017年4月7日(木) 19時00分~21時00分

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo090flyer.pdf>

■名古屋部会(No.11)を開催します

日時:2017年4月22日(土) 15時00分~17時00分

場所:椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya011flyer.pdf>

■大阪部会(No.53)を開催します。

日時:2017年5月13日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

参加方法は以下をご覧ください

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka53flyer.pdf>

■札幌部会(No.17)を開催します

日時:2017年5月20日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo017flyer.pdf>

* 関連団体の報告です。

・生命保険協会作成の中高向けの社会保障に関する授業教材と指導マニュアルが完成しました。ネットワークのHPにリンクが張られています。参照、ご活用ください。

【 3 】授業のヒント

■最後の授業

昨年4月のこの欄には「しよっぱなのインパクト」という題で、最初の授業の重要性を書きました。今回は、最後の授業のインパクトです。

3月の期末考査、学年末考査が終了したあとの時間は授業という点では、一種の空白が生じます。その対策として、埋め草的に映像を見せたり、作業をやらせたりすることもあります。それがそれではもったいない。また、二年前の3月のこの欄にかいたように、「一年間の授業で覚えていることは何？」という問いを生徒に投げ

かけることも有効です。

それ以上におすすめるのは、これだけは伝えたかったんだという個人的メッセージをこの期間に投げ込むことです。

多くの学校では普段は教科書の消化におわれて先生方自身の個人の思いを生徒に伝えるような授業はできません。また、公立学校では、中立性を強く要請されますから、一方的な価値観での授業はできないことは言うまでもありません。

でも、せっかくの最後。ドーデの「最後の授業」ほどドラマチックではなくとも、思い切ったメッセージを生徒に投げることは悪くはないと思うのです。

筆者の場合は、最近は最後に「40年周期説」というのをやります。1945年を基準点として現代に向かって40年ずつ前進し、過去に向かって40年ずつさかのぼる。そうするとある波が描けます。1865年は維新前夜、そこから40年後、1905年は日露戦争、さらにそこから40年後は敗戦。そこから40年後はプラザ合意、さらにそこから40年後2025年はどんな年？そして「第二の敗戦」にならないためには何が必要かという問いをなげかけるという授業です。1905年では夏目漱石の『三四郎』のなかの広田先生の「亡びるね」という言葉も紹介しておきます。

この波は、経済で登場する景気変動の波のように明確な原因があるようなものとはちがってかなり恣意的なものです。生徒の反応も納得だけでなく、根拠がない、私たちがそうさせないなどの批判や反発も結構あります。

「40年周期説」がどこまで生徒の胸に響いてゆくかは、わかりませんが、先生が伝えたいという内容をここに込めているなということはあるようです。（新井）

【4】編集後記（みみずのたはこと）

先月、小中学校の次期の学習指導要領が発表になりました。これまではほぼ10年ごとの改訂でしたが、今回は5年と、きわめて短期間の改訂です。現在の学習指導要領がやっと定着してきたのにもう次の指導要領が押し寄せてくる事態となりました。

中学社会科に関しては、内容的に大幅な変更があったわけではないのですが、この性急さがマイナスにならないように、現場の先生を励ます政策が欲しいところです。（新井）

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇